

常照

第814号

東京オリンピックを終えて

新型コロナウイルスの影響で、異例の一年延期を余儀なくされた東京オリンピック・パラリンピックもなんとか終了しました。日本選手団は過去最多のメダルを獲得する大活躍でしたね。開会前から懸念されていたコロナの感染が外国選手の中から出たり、異常な猛暑でマラソン競技が開始時間を前倒しにしたり等々、決して予定通り何事も

なくというわけにはいきませんでした。

しかし、選手たちの熱い戦いは素晴らしかった。勝敗を超えて試合後にお互いの健闘を称え合う姿は大会にふさわしい、美しい光景でありました。国を超え、民族・宗教・思想の違い、身体の障害を乗り越えて互いに認め合う「平和の祭典」こそ、オリンピック・パラリンピックの大きな意義であります。

選手の皆様さん、関係者の皆様さん、本当にお疲れ様でございました。

阿弥陀さまの願い

ところで、私たち浄土真宗のご本尊・阿弥陀如来さまは、私たち凡夫を何とか救おうと四十八の願

いを発こされ、そのすべてを成就
(完成)され、阿弥陀如来となられ
ました。

その四十八の願いは根本の願い
〓本願と呼ばれ、その一つひとつ
が私たちの本質を見抜いた上で誓
われ、成就されているので、それ
によって私たちの救いが完成して
いることを意味しています。

その本願の第三番目に「悉皆金
色(しっつかいこんじき)の願」と
呼ばれる願いがあります。「悉皆金
色」〓「みなことごとく金色にしま
す。お浄土に生まれたものは、み
んなこの阿弥陀と同じ金色に輝く
姿にします」という願い・誓いな
のです。お浄土に生まれたなら、
あなたも私も一人残らず阿弥陀さ
まと同じ金色になるといいます。

いかがですか、皆さん。金色にな
りたいですか？オリンピックなら
金メダルが最高ですが、私は出来
れば遠慮したいです(大きな声で
は言えませんが…)。この第三の願
には深い意味があるようです。た
だ体が金ピカになるというだけ
はないのです。

オリンピックなどでは一位の選
手が金、二位が銀、三位が銅とそ
れぞれその順位で表彰されます。
だから選手はみんな一位の金メダ
ルの獲得を目指して必死に努力す
るのです。その努力の結果、金・銀・
銅のメダルとして評価されるので
す。

当然、銅より銀、銀より金が良い
ですね。このことだけでなく、
私たちが生活するこの娑婆世界は

「大きい・小さい」「高い・低い」「長い・短い」「あなた・私」というように、比べることで成り立っています。

このように比べて成り立つ世界を相対分別と言います。この娑婆では分別はあたりまえで、分別が無かったら生きていけません。あなたと私は違う人間ですから、何もかも一緒ということはありません。そして、そのお互いの違いを認めることが非常に大切なことなのであります。「みんなちがって、みんないい」のであります。

ところが私たちの生活・人間の歴史を見てみると、その違いを認めることができずに根拠のない差別や偏見が未だになくなりません。民族や宗教・思想の違いを認めな

い人種差別による暴行事件や殺人が世界中で今も起こっています。

全米・全豪オープンテニスで二度の優勝を果たし、今回の五輪の聖火の最終ランナーをつとめた大阪なおみ選手が、昨年、差別被害に遭った方の名前を書いたマスクをして登場し、人種差別に対し無言の抗議をしたことが思い出されます。

「みんな金色」ということは、阿弥陀さまの平等の救いをあらわしているのです。みんな同じく金色なら比べる必要がないのです。

「悉皆金色の願」とは、私の心が自分中心の分別であり、おそろしい差別や偏見をはらんでいることを教え、相対分別を超えた仏さまの願いにこそ、すべてのものが平

等に救われていく仏さまの智慧が輝いていることを教えてくれています。

相対分別の世界でしか生きられない私たちには本当の真実というものはないのでしよう。しかし、仏さまの教えを聞き、阿弥陀さまの願いに触れるとき、私たちの分別は決して真実ではないこと、その分別がおそろしい差別や人の命を奪うような事件を起こしかねないということを教えていただくのです。

分別が無くなるということはありませんがお互いを認め合い、尊重し合い、一度しかない尊い人生をお念仏と共に生きてまいりましょう。

南無阿弥陀仏……

十一月の常例布教(ご法話)のご案内

○前期 十一月七日(日)～十一日(木)

北海道教区十勝組顕勝寺

講師 芳滝 智仁 師

○後期 十一月十三日(土)～十六日(火)

講師 未定

○場所 小樽別院本堂

○時間 午後二時(法要終了後)～午後三時半

浄土真宗のみ教えについて布教使にご法話をして頂きます。どうぞお誘い合わせいただき、ご聴聞に来院くださいますようお願いしております。

発行所

☎047-0017

小樽市若松一丁目四番十七号

本願寺小樽別院

電話 (一三四) 二二一〇七四四番

FAX (一三四) 二二九一四〇八〇番

テレホン法話 二二七一六一六番